

# 諫高同窓会々報

長崎県立諫早高等学校  
同窓会事務局  
TEL 22-1222・FAX 22-5104  
http://www.news.ed.jp/isahaya-h/  
編集 樹 馬  
印刷 所 社  
諫早印刷株式会社  
TEL 22-1350

## コロナ禍継続のなかで



同窓会々長 池田 光利  
(高校二十回・昭和四十三年卒)

同窓会の皆様には、同窓会活動に深くご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

コロナ禍で昨年度・今年度の二年間の同窓会活動は、諫早をはじめ五支部(関東、関西、中京、

福岡圏、長崎)すべての総会・懇親会等の活動が中止となつてしまいました。その厳しい環境の下で、学校では原田校長先生をはじめ教職員、生徒の皆様のご尽力により、二年間にわたる創立周年(附属中学校十年・高校百年)記念事業等の学校行事が、無事に実施さ

れました。同窓会としても周年記念事業として、昨年度のパソコン等につづき今年度は、エアコン二基(化学室・生物室)、WJTBの設置(第一・二体育館、会議室等)、電子黒板三台を母校へ寄贈しました。御書院の庭には、老木化して白い花の開花が少なくなつてしまつた初代ヒトツバタゴのそばに、二代目の植樹をし、創立百周年記念誌の作製等母校への支援活動を行いました。

また同窓生の脚本家(故)市川森一氏(高校昭和三十五年卒)の顕彰碑の建立(諫早市立諫早図書館南口庭園内に設置)事業にも参加しました。本校はここ数年、進路実績・部活動等に目覚ましい成果を挙げ、高い評価を受けています。昨年末の女子第三十三回全国高校駅伝大会では、四月の転勤で藤永佳子先生から羽山篤史先生(数学教諭・諫高陸上部OB)への監督交替があつた中で、諫高は八位へ入り二年ぶり十四年度目の入賞と、明るい話題を提供してくれました。

今後とも同窓会活動を通して、会員相互の親睦とともに母校の発展のため、会員の皆様のお力添えをお願いします。

希望生徒で結成したチームが、全校生徒を対象とした講演会の講師を選定し、交渉、当日の講演会の運営まで主体的に行う「グローバル講演会」を年二回開催しています。令和元年度の文化祭においては、生徒会総務委員会が諫早の飲食店と交渉し、ジャガイモを材料とした新しいレシピを開発してもらつたうえで、出店していただきました。

地方部と都市部との教育格差解消をねらいとした活動を行う東京大学公認の学生団体Fat Windとオンラインで交流を行い、自分たちの考えを深めました。将来医師になることを志している生徒が、南松浦郡上五島町に所在するへき地中核病院や診療所に伺い、地域医療の実態を学ぶ離島医療インターシップを企画しました。この企画は新型コロナウイルス感染症のため残念ながら一度も開催できておりませんが、状況が改善次第実施する予定です。

## 創立周年閉幕行事



校長 原田 尚之

同窓会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年十二月に京都市で開催された女子第三十三回全国高等学校駅伝競走大会において、コロナ禍により、選手たちの調整も難しい状態でしたが、本校陸上競技部女子チームが出場四十七校中

八位という成績を収め、二年ぶり・十四回目の入賞を果たしました。特に三年生二名が区間二位、三位の力走で最後の大会に花を添える事ができました。この大会に先立ちまして諫早高校駅伝後援会からご支援のお願いをいたしましたところ、多

くの同窓会員の皆様から募金をお寄せいただきました。皆様のご支援に對し、心より厚く御礼申し上げます。今年も昨年以上の成績を残せるように精進してまいりますので、今後とも一層のご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年度諫早高校附属中学校が創立十周年、今年度は諫早高校が創立百周年を迎えるにあたり、一昨年十一月の閉幕行事を皮切りに一年間を「創立周年記念year」と位置づけ、各学校行事に「創立周年記念」の冠を付けて実施してまいりました。昨年も紹介しましたが、スローガン

「Restart」(軌跡をたどり、奇跡をつくる)とシンボルマークは、生徒から募集し、教職員で厳選後、生徒の投票で決定しました。一昨年十一月閉幕行事は、地元諫早で活躍されている三人の方をパネリストにお迎えしてパネルディスカッションを行いました。昨年十月の閉幕行事では、本校四十五回生の片田江舞子(かただえ・まいこ)様を講師にお迎えし講演会を行いました。コロナ禍の実施ですの、感染防止対策として、高校一、二年生は会場の諫早文化会館大ホールで直接講演を聴き、中学生と高校三年生は学校の各教室でYouTubeライブ配信を電子黒板で視聴するというハイブリット形式で実施しました。その際使用した電子黒板やノートパソコンの一部は同窓会のご支援をいただき購入

させていただきました。さて、講演後、グロリア講演企画チーム(生徒有志)が企画・運営し、講師の片田江舞子(かただえ・まいこ)様を囲んで、生徒や教職員の有志で語り合うワールドカフェを諫早文化会館中ホールで実施しました。参加者は当初の予想を大きく上回り一五〇名を超える参加者となり、大変盛り上がりました。まさしくスローガン「Restart」(軌跡をたどり、奇跡をつくる)これからの諫早高校、附属中学校の新しいスタートを切るにふさわしい、生徒参加型の閉幕行事だったと思います。

新型コロナウイルス感染症については、先のこととが全く見通せない状況ですが、本校の教育活動は、その教育的な効果と感染予防との両立を図りながら今後も進めてまいります。そのような中、学校活動の様々な局面で、

「繋がる」教育  
本校では、数年前から学校外の方と繋がり教育活動を行う取組を展開してまいりました。そのような事例をいくつかご紹介いたします。

希望生徒で結成したチームが、全校生徒を対象とした講演会の講師を選定し、交渉、当日の講演会の運営まで主体的に行う「グローバル講演会」を年二回開催しています。令和元年度の文化祭においては、生徒会総務委員会が諫早の飲食店と交渉し、ジャガイモを材料とした新しいレシピを開発してもらつたうえで、出店していただきました。

地方部と都市部との教育格差解消をねらいとした活動を行う東京大学公認の学生団体Fat Windとオンラインで交流を行い、自分たちの考えを深めました。将来医師になることを志している生徒が、南松浦郡上五島町に所在するへき地中核病院や診療所に伺い、地域医療の実態を学ぶ離島医療インターシップを企画しました。この企画は新型コロナウイルス感染症のため残念ながら一度も開催できておりませんが、状況が改善次第実施する予定です。

このように本校では生徒が主体的に活動し、対話を通じた多様性との出会いの中で、未来の創り手である生徒がさらに大きく成長していくことを期待しているところであります。同窓会員の皆様におかれましては、本校の教育活動に對しまして、今

校外の方からご協力いただく様々なプログラムを提供し、生徒の成長の機会をつくっております。このような取組の一つとして、令和元年度より毎年開催しているのが、「未来人財セミナー」(以下、セミナー)です。長崎県内所在の企業に來校してもらい、企業理念や事業内容、社会貢献、求める人材像、キャリアアップ等、各企業の魅力を高校一年生に語っていただく取組です。

長崎県の未来の担い手となる「人財」が本校生徒から一人でも多く現れることを願ひ、卓越した技術で事業を展開している企業、まちづくりに大きく関わっている企業、働き方改革で大きな成果を上げている企業、事業における重要拠点を長崎県に置く企業という四つの基準で選んだ企業に、「夢の種まき」へのご協力を願ひしました。これまでセミナーは三回開催しました。終了後の生徒の感想には、次のような新しい気付きが書かれたものもありました。

「自分の働きたい会社のイメージがあり、それは都会にしかないと思っていたが、長崎の会社でも自分のイメージと似た会社があり、そこで働きたいと思った。」

「長崎にも全国を相手に商売をしたり、世界の一流ブランドと協力したりしている会社があるということ。」  
そして、生徒のみならずセミナー開催に携わった教職員も長崎県の企業のことについて新たに知ったことがたくさんありました。  
さて、本校のこの取組は、県内の他の大規模普通校にも拡がるなど、県の教育施策にも影響を与えました。  
また、「未来人財セミナー」を含む本校のこれまでの取組が評価され、長崎県教育委員会のご推薦をいただき、令和三年度において「第一四回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」の表彰校となりました。これも本校の教育活動にご協力いただいた皆様のご支援の賜物と、この場をお借りして感謝申し上げます。  
本校では、学校外の方と繋がり教育活動を行う取組を、今後もさらに進化させつつ継続してまいります。もし、機会がございましたら、皆様からのご協力やご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

# お礼 令和三年度全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

## 新しい諫早

陸上部顧問・女子駅伝監督 羽山篤史 (五十一回卒)

同窓会員の皆様には、日頃より多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。四月に赴任をいたしました。十二月の都大路を目標に練習を重ねてまいりました。前任の藤永先生の異動により生徒たちの戸惑いも計り知れないものだったと思います。指導者が変わり、練習内容も



1区 蔦野 2区 水谷→3区 川口



4区 野村 5区 田中



変わり、選手にとっては不安ばかりが募っていたことでしょうか。それでも、一人一人と言葉を交わし、練習内容の意図を伝え、選手の不安や不満と真摯に向き合ってきました。その結果、高校総体女子総合優勝に貢献し、インターハイに三年生二名が出場することができました。さらには、夏の走り込みを経て、一・二年生が力をつけて秋の新人大会において二種目で上位を独占しました。迎えた十一月の県高校駅伝。私自身、都大路の切

符を取ることを目標としていましたが、選手から出た目標はさらに高い「三年連続全区間区間賞の完全優勝」でした。主力選手の故障によりベストメンバーではありませんでした。しかし、十二月に二区に三分以上の差をつけて都大路の切符を獲得しました。もちろん、全区間区間賞の完全優勝でした。これまで諸先輩方が築き上げた伝統に対する選手の想いが現われたレースとなりました。二週間後に行われた九州高校駅伝においても四位入賞と都大路に向

つかわることができました。しかし、都大路までの一か月は、故障との闘いでした。都大路で入賞するためには、ベストメンバーで臨むほかはありませぬ。しかし、十二月に入っても故障者の状態はよくありませんでした。そのようなチーム状況を打開したのは、三年生の二人でした。一・二年生の成長から刺激をもらい、最後の都大路に懸ける想いが走り現れ始めたのです。そして、今回のオーダーが決まったのは京都出発の前日でした。一年生の勢い、二年

生の安定性、その上に三年生の想いが重なり「新しい諫早」が出来上がりました。長距離女子部員十名、一人一人が主役として都大路を戦い抜きました。一区の積極的な走り、二区の素晴らしい追い上げ、三区の冷静な追撃、四区の我慢と気魄、五区の責任感、サポートメンバーの想い、すべての力が一つとなり、部員全員で八位入賞を勝ち取ることができました。

「名門諫早」に近づけるように、これから一つ一つ積み上げていきたいと思えます。今後とも変わらぬ応援をよろしくお願ひいたします。

## 諫高定時制の一年

定時制教頭 吉田英雄

### 【第七十三回入学式】

四月九日(金)、五名の新生を迎え、総勢二十九名で令和三年度の諫高定時制がスタート。対面式や新生歓迎レクレーション等を通して親睦を深め、充実した学校生活をスタートすることが出来ました。約半数の生徒が、昼間働き、疲れた体に鞭打って、夜の授業、部活動等に励んでいます。二学期末現在の出席率は九十%を超えています。

### 【生活体験発表】

九月二十六日(日)、県定時制通信制生徒生活体験発表大会が佐世保市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は作文審査のみとなりました。

### 【文化祭】

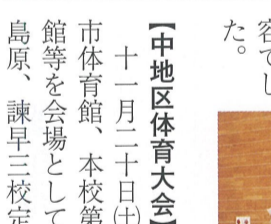
十月二十九日(金)、第十二回文化祭を本校第二体育館で開催。生徒会の役員が率先して事前準備に取り組み、限られた時間で準備された各学年の作品や普段の授業(家庭・書道・課題研究)の成果物の発表と、完成度の高いものばかりで、素晴らしい内容でした。

### 【卒業証書授与式】

前日の同窓会入会式、各種表彰に続き、三月二日(火)、第七十回卒業証書授与式が挙行政されます。令和三年三月までの卒業生は一五四四名、今年度の卒業予定者は九名です。



【県定通体育大会】 六月十三日(日)、鳴滝高校、長崎工業高校を会場として県定時制通信制体育大会が開催。本校からは、バドミントン男女(団体・個人)、卓球男女(団体・個人)、卓球女子個人で三年金子咲希さんが第三位入賞、奈良



【中地区体育大会】 十一月二十日(土)、諫早市体育館、本校第二体育館等を会場として、大村、島原、諫早三校定時制に



【卒業証書授与式】 前日の同窓会入会式、各種表彰に続き、三月二日(火)、第七十回卒業証書授与式が挙行政されます。令和三年三月までの卒業生は一五四四名、今年度の卒業予定者は九名です。

## シリーズ「おしどりの池」⑱

野口 晟 (六十四回生)

ようやく自分が在学中に朝補習や放課後補習、休日の模擬試験等をしていただいていたことが、大変有り難いことだったのだと気づくことができた。今までたくさん与えてもらっていたものを、次は私が今の生徒たちに返す番だと感じております。母校を誇りに思い、将来日本や世界で活躍する若い学生たちの力に少しでもなれるよう尽力します。

昨年三月、諫早高校附属中学校への異動が決まったとき、驚きとともに母校で勤務できる嬉しさがありませんでした。諫早高校での三年間を振り返ると、学校が終わるとすぐに自転車でグラウンドに移動し、野球の練習に明け暮れたこと、そして全校応援のなか、ビッグN

でプレーしたことが一番の思い出です。また、私が高校三年生の時に創立百周年を迎え、附属中学校が創立をいたしました。創立百周年の今年度に赴任をし、附属中学校で勤務できることも何かの縁だと感じています。現在、着任して一年が経とうとしています。

学校において、年明けからオミクロン株の爆発的感染によりマラソン大会が中止となり、分散登校・部活動中止がはじまり、通常とは違う光景が続いている。高校時代の思い出づくりの場所が寂しい限りであるが、こういう状況でもオンラインを活用するなど、教師・生徒一丸となって頑張っている。

昨年、本校も創立周年記念事業が終了し、今年から新たなステージに向かって進んでいる。本校を卒業する七十四回生もこれから各方面へ進学・就職し同窓生の方々とも出会う機会が増えるだろう。その時はいろいろな話をしていただければと思う。私自身、母校で定年を迎えられることに感謝し、今後の発展を願う。改めて十年前引き受けて良かったと思う。

## 編集後記

### 「想い」

「断らんでよ!」: 創立百周年記念式典が終った翌年、校長室で言われた言葉である。あれから十年間、事務局として同窓会に関り関東・関西・福岡圏・長崎支部・同窓会総会に参加し、多くの同窓生の方々と知り合うことができた。三十年ぶり以上に高校卒業以来の友人とも出会い、また学年・年代を超えた集まりで、さまざまな諫早高校の歴史を覚えていた。何より母校に対する想いを強く感じることもできた。いつの間にか私自身が各支部総会に毎年参加する事を楽しみにするようになった。しかしながら、コロナ禍によりこの二年間全ての総会や懇親会が中止に追い込まれ、これを楽しみにしている同窓生の方々の気持ちはいかばかりかと思われる。今年こそ再開できることを祈念している。